



大規模災害発生時の感染症対策

新型コロナウイルスの感染拡大で、大規模自然災害発生時における避難所の開設においても、クラスター（感染者集団）を招く複合災害が懸念されるなど、新たな問題点が浮き彫りとなっています。

避難所の「密閉」「密集」「密接」を回避するため、各自治体も知恵を絞っているところですが、感染リスクを抑え、身を守るために、どのような工夫ができるか、考えてみました。

防災
西警速報
発行
浦和西警察署
854-0110

～では、どうすればいいの??～

対策その1 「自治体等の対策例」

- ◎ 従来は2平方メートルだった避難所での1人分のスペースを4平方メートルに拡大
- ◎ 2メートルの間隔で床にテープを貼り、避難者同士の間隔をあける
- ◎ 体育館だけではなく、教室も利用（換気も！）
- ◎ 消毒液、マスクの備蓄
- ◎ 高齢者、障害者らを受け入れる「福祉避難所」としてホテルの活用
- ◎ 報道では避難所用の段ボール製の「間仕切り」を購入した自治体も！

みんなで考えよう



対策その2 「個人でできる対策例」

- ◎ 在宅避難
さいたま市ではホームページ上で「在宅避難のお願い」を掲載しています。
自宅が浸水や土砂災害などの危険がなく、安全が確保されている場合は在宅避難が出来る様に、食料や水を備蓄し、屋内の安全対策を！
- ◎ 避難所に避難した際は、体調チェックや検温の実施と「手洗い」「マスク着用」などの「せきエチケット」を徹底
- ◎ 非常時持ち出し袋の中には、マスク、アルコール消毒液、ハンドソープ、使い捨てビニール手袋、体温計、携帯トイレなど可能な範囲で準備をしましょう。

非常持ち出し袋の中身も定期的にチェック!



～官民一体となった防災・減災対策の推進～